

番号	科	名称	天気	23年度観察数												観察月数	観察数合計		
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
				観察日	12	16	19	12	17										
1	カモ	カルガモ															0	0	
2	ハト	キジハト		3			2	2	3								4	10	
3	ウ	カワウ															0	0	
4	サキ	アオサキ															0	0	
5	サキ	ダイサキ	○														0	0	
6	カッコウ	ツツリ	・														0	0	
7	トビ	トビ	○														0	0	
8	効	ツミ	VU														0	0	
9	効	ハイ効	VU														0	0	
10	効	オオタカ	VU														0	0	
11	効	ノスリ	VU		1												1	1	
12	キツキ	コゲラ			1	1	1										3	3	
13	キツキ	アオゲラ	○														0	0	
14	キツキ	アオゲラ	○	1	1	1		1									4	4	
15	ハヤブサ	チョウゲンボウ	VU														0	0	
16	ハヤブサ	ハヤブサ	VU														0	0	
17	モズ	モズ	VU														0	0	
18	カラス	カケス															0	0	
19	カラス	オナガ	NT	2	3	8	10										4	23	
20	カラス	ハシボソガラス		1	3	3	6	1									5	14	
21	カラス	ハシボトガラス		2	7	6	7	3									5	25	
22	シジュウカラ	ヤマガラ	○		1												1	1	
23	シジュウカラ	シジュウカラ		9	10	2	7	1									5	29	
24	ツバメ	ツバメ			2	1	1										3	4	
25	ツバメ	イワツバメ	NT														0	0	
26	ヒヨドリ	ヒヨドリ		8	21	15	13	11									5	68	
27	ウグイス	ウグイス	○	6	4	3	3										4	16	
28	エナガ	エナガ		1	18		2										3	21	
29	シロ	シロ					6	6									2	12	
30	ムクドリ	ムクドリ			6	17	8										3	31	
31	ビタキ	シロハラ															0	0	
32	ビタキ	ツグミ															0	0	
33	ビタキ	ルリビタキ															0	0	
34	ビタキ	シヨビタキ															0	0	
35	ビタキ	コサメビタキ	VU														0	0	
36	スズメ	スズメ															0	0	
37	セキレイ	キセキレイ															0	0	
38	セキレイ	ハクセキレイ															0	0	
39	アトリ	アトリ															0	0	
40	アトリ	カワラヒワ															0	0	
41	アトリ	シメ															0	0	
42	アトリ	イカル	NT														0	0	
43	ホオジロ	ホオジロ	NT														0	0	
44	ホオジロ	アオジ															0	0	
観察種数 月 / 年				9	13	11	12	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	



月	23年度コメント
4	木々の葉が茂りはじめており、鳥の姿を確認するのが難しい時期になってきた。その上、今日は強風が吹いており、鳥の出は良くなかった。ウグイスの囀りは多く聞こえた。近くで囀っているものの、その姿は見つけられなかった。ガビチョウの声も2か所で聞こえた。アオゲラの声は聞こえたが、姿は確認できなかった。
5	アオゲラが直近で大きな声で鳴いていたが姿は確認できず。樹木の葉が生い茂り、暑い日差しを遮って日陰になっていた。エナガの家族が18羽まとまって飛んでいた。羽毛がボサボサのヒヨドリ幼鳥を確認した。確実に繁殖している証である。上空を飛翔していったノスリを確認したが、武蔵台公園では初認である。
6	樹木の葉が一段と濃くなり、鳥の姿を目にしにくい。ウグイス、ガビチョウは声が良く通り、しっかりカウント出来た。ムクドリも集団で飛んでいる姿、樹上からの声で存在を知らせてくれた。コウゾに小さな実が緑やオレンジ色になっているもの沢山ついていた。それを目指して、ヒヨドリ、オナガが姿を見せた。子育てが一段落したのか、小鳥の声が少なかった。
7	今日は猛暑日で、11時で35℃を超えた。暑さで鳥も鳴かず飛ばずの状況。樹木の葉も茂り、鳥の姿を確認するのが難しい時期になった。そんな中、羽根の色が薄いムクドリの幼鳥、頭の毛がボサボサなヒヨドリの幼鳥、口内が真っ赤なハシボトガラスの幼鳥が見られた。抜け毛が目立つハシボトガラスがみられ、子育てが終わり、換羽が始まっているようであった。
8	観察開始から中盤までは、カラスの鳴き声と病院側フェンス奥でアオゲラの鳴き声が聞こえるだけで、全く鳥影なし。公園梅林付近の常緑樹(トウネズミモチやハクウンボク)内にメジロ、ヒヨドリを確認。終盤、道路周辺に外来種のガビチョウ4羽を確認。繁殖した模様。最後に目の前の枝でヒヨドリがセミを捉えて枝に打ち付けて食べようとしている様子が観察できた。
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

注1: 表の最下段は月ごとの観察種数と年間の観察種数。  
 注2: 名称欄記号は、2023年度東京都レッドデータ、北多摩の категория 表示。

外来種

観察月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カラハト	32	6	2		4							
ガビチョウ	2	2	2	2	4							
ソウシチョウ												
ホンセイインコ												

レッドリスト表示について

名称欄に東京都レッドリストの категория 表示を行った。category 表示の条件を以下に示す。

2023年版 東京都レッドリスト

category 名称	表示	基本概念
絶滅危惧 I A類	CR	ごく近い将来における野生で絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧 I B類	EN	I A類ほどではないが、ごく近い将来における野生で絶滅の危険性の高いもの
絶滅危惧 II類	VU	現在の状況をもたした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧	NT	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」としての上位ランクに移行する要素を有するもの
ランク外	○	前回2010年版に掲載されていて今回の改定によりレッドリストから外れた種
非分布	・	主要な生息地でないという理由から対象外とされた種